参議院議員　東京都選挙区

朝日　健太郎

～宮崎県日南市～

油津港・大堂津海岸　視察レポート

東京から　誰もが輝ける社会へ　2017.8

1　概要・目的

(1)油津港視察

クルーズ船の入港及び下船の様子、中堅寄港地でのクルーズ船の受入れ実態の視察と現況把握することを目的とした。

(2)今年も開催されたビーチフェスin日南

地元の子どもたちとダイヤモンドプリンセスのクルーが、日南市のビーチを利用した体験型の交流事業を行うことで、買い物や観光とは異なる寄港地での新たな楽しみ方を模索するために行われた。新しいクルーズ船受入れサービスになり得る事業として注目しており、その様子を確認しつつ、自らその現場を体験することを目的とした。

2　油津港視察

(1)クァンタム・オブ・ザ・シーズ

上海発着のアジア最大級のクルーズ船で今回が12回目の寄港であった。5000人弱の乗客の約95パーセントが中国人であり、子ども連れのファミリー層が多い印象をうけた。

下船後は、待機している約120台のバスに乗ってツアーに行く人が多く見受けられた。ツアーは主に日南市の観光スポットである鵜戸神社や飫肥城下町を巡るものが多くあったが、ショッピングセンターに向かうツアーもあった。地元主導の港での物販等のおもてなしについては、ツアー終了後帰船時に行ってほしいとの要請があったようだ。

船内視察では、下船せずに船内で過ごしている乗客の実態を見ることができた。船内には、様々なアクティブ空間が用意されていたが、人工的に作られた波でボディボードを楽しむコーナー、ボルダリングコーナーなど体を動かすものが人気であった。

船内でくつろぐ乗客達

(2)ダイヤモンドプリンセス

前日のクァンタム・オブ・ザ・シーズに比べ、欧米人が多く、また乗客の多くが年配の方であり、落ち着いた雰囲気だったのが印象的であった。

港では20名ほどの通訳ボランティアスタッフが港に降りた外国人を相手にツアーなどの説明を行っていた。

ダイヤモンドプリンセス入港時は、接岸前に船体が180度旋回する場面を見ることができた。大型クルーズ船の旋回する姿に圧倒されつつも、クルーズ船の受入れを考える際には、港

の構造のみならず、船の性能をも考慮した包括的な視点がなければならない場面があると感じた。

旋回中のダイヤモンドプリンセス

3　ビーチフェスin日南の視察

(1) 当日は天気も良く、朝は日南市のスポーツ団に属する子ども達が60名ほど集まり、日南市﨑田市長を交え、ビーチバレーボールの教室を行った。

第2回目となった今回のビーチフェスin日南は、ビーチバレーボールの他にビーチフラッグス、ビーチテニス、ビーチドッジボール、シーカヤック、スタンドアップパドルが体験できる予定であったが、残念ながらシーカヤック、スタンドアップパドルは海が荒れていたために体験できなかった。

去年に比べ海辺を楽しめる要素が増えたことが非常に良いと感じた。

(2) 大堂津浜のビーチには、ダイヤモンドプリンセスのクルーが50名ほどやってきた。パラソルの下でお酒を飲んで談笑する人、地元の子ども達と一緒にビーチスポーツを楽しむ人、海に泳ぎに行く人など、大堂津浜のビーチ空間を各々で満喫していた。昨年に引き続き参加した乗務員もおり、ダイヤモンドプリンセスのクルーと地元市民の交流がまた一つ深まったと感じた。

地元の子ども達とクルーの交流

4　所感

(1)油津港　クルーズ船の受入れ実態

2017年は約30回のクルーズ船の寄港がある油津港。現在有する地元の人材、資源を活用して対応している印象が強かった。

外国人ガイドについては2018年1月より規制緩和がなされるので、より多様な人材の確保が期待される。一方、港についてはその利用が物流との兼用となるため、下船場の空間が殺伐としており、港の空間環境の改善が必要ではないかと考える。

近年、外国人客の需要が爆買いから体験型への移行が進む中、クルーに対しての事業を展開するのも一つのクルーズ振興の戦略になると考える。1000人程のクルーに実りある楽しい体験を提供することによって、その土地がクルーズ船の寄港地として定着するきっかけの一つになるのではないかと考えるからである。

油津港で用意されたパンフレット

また、地元の子ども達にとっても、日常では体験できない外国人との交流を行うことができ、グローバル社会に対応する人材育成という観点からも良いと考える。

業務がないクルーは船内にて待機する者も多く、こういったところにアプローチすることは斬新で画期的なことだと考える。

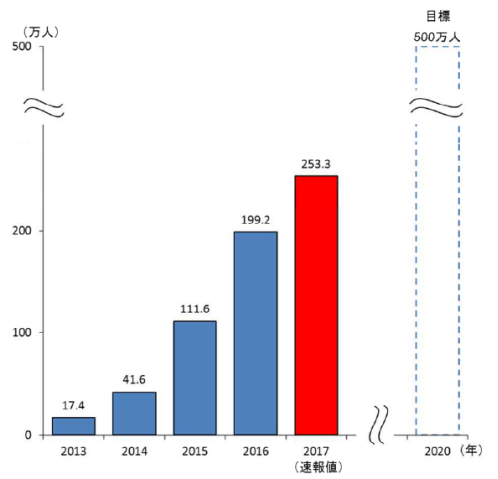
(2)来日クルーズ船の現状について

近年、日本には多くのクルーズ船がやってくるようになった。特に九州を中心として、中国を出発地とするクルーズ船が多いようである。

その要因としては、まず出港地である上海市と江蘇省、浙江省などに住んでいる比較的裕福な人々(人口にして1億5000万人程)が日本に向けて多く乗船していることが考えられる。また、法務大臣が指定するクルーズ船の外国人乗客を対象として、簡易な手続きで上陸を認める「船舶観光上陸許可」制度が設けられたことによって、ビザなし訪日が可能になったことも大きく影響している。船にさえ乗れば快適に移動することができ、高齢者や小さな子供を含む家族連れには好評となっているようである。さらに、ツアー会社の都合により、ツアー代金が手ごろな値段となることが多く、それがまた中国人の乗船意欲を高めている。

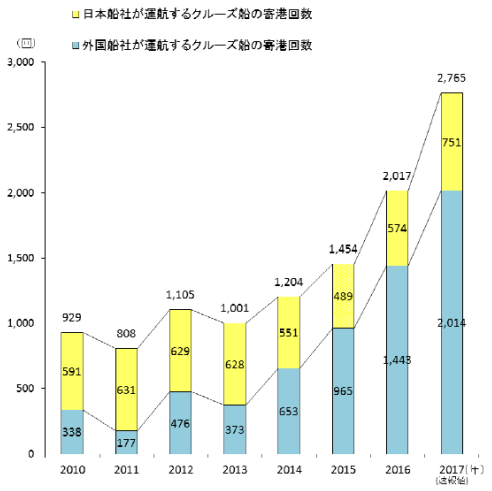
図表１　クルーズ船による外国人入国者数（概数）

	外国人入国者数	対前年増減	対前年比
2013年	17.4万人	-	-
2014年	41.6万人	24.2万人	139.1%
2015年	111.6万人	70.0万人	168.3%
2016年	199.2万人	87.6万人	78.5%
2017年(速報値)	253.3万人	54.1万人	27.2%



注１）　法務省入国管理局の集計による外国人入国者数で概数（乗員除く）。
注２）　１回のクルーズで複数の港に寄港するクルーズ船の外国人旅客についても、（各港で重複して計上するのではなく）１人の入国として計上している。

図表２　2010～2017年　我が国港湾へのクルーズ船の寄港回数



そのような諸々の背景が重なり、現在日本には多くの中国人が訪れている。

(3)　まとめ

一般的な課題としては、下船後のオプションツアーの改善、需要にこたえるハード・ソフトを含めた受け入れ態勢の構築、地元経済へメリットの創出などが必要だと言われている。特に、地元に経済効果を生むためには、寄港地が周辺の関係者とのネットワークを事前に構築し、地元に経済効果が還元される仕組みづくりを構築する必要があると考える。

そういった意味でも、昨年から日南市が行っているクルーズ船のクルーを対象とした本事業については今後も注目していきたいと思う。

今後も多くの外国人がクルーズ船で日本を訪れることになるだろう。上記のような課題に加え、クルーズ船寄港に伴う環境破壊・汚染、道路混雑、港以外の道路も含めた公共施設の改良など付随する課題にも目を向け、政官民が一体となって課題克服し、日本が真の観光大国となれるような取り組みを今後加速させていきたいと思う。

以上

参考文献

奥田聖「中国発クルーズ船旅行体験記」福岡貿易会ウェブサイト＜http://www.fukuoka-fta.or.jp/uploads/attachments/1_1436424001_1.pdf＞

「巨大クルーズ船で押し寄せる中国人観光客」『IRC Monthly』2016.2, pp.28-31.

酒井裕規「地方港におけるクルーズ船誘致に向けた課題」『運輸と経済』2017.7,pp.42-49.

国土交通省港湾局産業港湾課クルーズ振興室「クルーズ振興を通じた地方創生」『運輸と経済』2017.7,pp.4-11.

「2017年の訪日クルーズ旅客数とクルーズ船の寄港回数（速報値）」国土交通省ウェブサイト＜http://www.mlit.go.jp/report/press/＞

朝日健太郎事務所作成　2017年8月

ご意見・ご質問等いつでもご連絡ください！

参議院議員　朝日健太郎事務所

〒100-8962東京都千代田区永田町2-1-1参議院議員会館620号室

ＴＥＬ　03-6550-0620　ＦＡＸ　03-6551-0620